
ひとつの恋

太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとつの恋

【Nコード】

N0346B

【作者名】

太郎

【あらすじ】

秋から冬へ季節の移り変わりの時期、とある大型スクリーンの前に立ち止まる。そこからフラッシュバックされる10年の歳月。淡い青春の短編ストーリー。

・ ・ 今日までありがとう。 元気でね ・ ・

季節はめぐり、今年も冬が近づいている。

街はすこしずつ、その装いを変えていく。

大型スクリーンに映し出される、今最も旬の女優。

田中美咲。

僕は立ち止まって、そのスクリーンを見つめた。

「あれから10年か。」

高校を卒業したばかりの僕は、役者を目指し上京した。

上京後すぐ、小さな劇団に入団する。

そこで同じ夢を持つ美咲と出会った。

千駄ヶ谷にある小さな稽古場が、二人にとっては青春そのものだった。

僕らはお互いの夢や、演劇論について語り合った。

たまには自分の意見を主張しあってぶつかることもよくあった。

だが、互いに惹かれあう二人にとって、つきあうまでの期間はそう長くはかからなかった。

それから3年の歳月が過ぎたある夜のこと。

僕らは新宿での舞台を終えて、楽屋にいた。

「おい、美咲！オスプロの人がお前に会いたいわって来てるぞ！」

座長の江越が慌てた様子でドアを開け、そう言った。

「え？わたしに？」

美咲はびっくりした様子で江越を見返した。

「これってすごいチャンスだぞ！とにかく会ってこいよ！」
江越がうなぐす。

美咲は僕の顔を見つめると、そのまま楽屋を出て行った。

そこに居た何人かの劇団員が僕の肩をたたく。

「すげーな！オスプロだつて！」

興奮に乾杯をはじめる劇団員のなか、僕の心中は複雑だった。

美咲の演技は、観客をひきつける不思議な表現ちからをもっており、

僕らから見ても、劇団における美咲の存在は大きかった。

いつか、こんな日が来るのではと予感はしていたが、

現実になると手放して応援してあげられない自分がいた。

その夜から2週間ほど経過した、10月も終わりの頃。

僕らは新宿の大型スクリーンの前にいた。

「楽しかったよ。」

きりだしたのは僕のほうだった。

美咲は人目をはばからず泣いて、僕を抱きしめた。

僕らは別れを選んだ。

道行く人々の雑踏に消えうるよう、ひとつの恋が終わった。

10年が経った今、僕はあの時と同じ場所で大型スクリーンを見上げて
いる。

「お待たせ！」

僕の顔を下から覗き込む女の子。

「ああ待った待った。早く行かないと映画の時間すぎちゃうよ。」

「ごめん。行こー！」

僕の手をとって歩き出す今の彼女。

大型スクリーンに映る美咲を背に、僕らは雑踏の中へ消えていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0346b/>

ひとつの恋

2011年1月16日06時23分発行